

いきいきサロン

皆さんからの投稿でつくる、皆さんのページです

投稿募集中

お便り

花束贈呈
仙台市若林区 菅原智子(76)

3・11。私は後期高齢者の仲間入りをし、「今年一年は何か初めてのことをやってみよう」と思いました。「2018いきいきシニア夏まつり」の増田明美さんの講演会で花束贈呈にチャレンジし、すてきな経験をさせていただきました。娘の年齢に近い増田さん

と一緒にいろいろなお話もでき、本当にうれしかったです。とても心配りのできる優しい人柄を感じました。講演はアスリートとして、時に都はるみさんの物まねも披露し、パワフルでユーモアがあり、見る人、聞く人を楽しませてくださいました。ご主人もとても優しい方でした。

花束贈呈のことを孫娘に話しました。彼女は中学・高校と部活動が陸上で、「中学生の時に青森にいらした増田さんと一緒にマラソンを走り、学校に写真があったよ」と教えてくれ、驚きました。花束贈呈の前に聞いていたら増田さんとの会話ももつと楽しかったかな、と思うことも何かな。不思議な縁を感じました。孫娘の子ども、私にはいとおいひ孫は今年3歳になりました。来年2月にはひ孫たちが北海道の千歳から来仙の予定。健やかに成長するひ孫と元気に遊べるよう、健康でいたいと思っています。

今年も残りわずかですが、年ごとに時の流れが早くなるような気がします。二度とない今日を大切に、そしていろいろな初めに、もう少しチャレンジしてみよう。

古里の楽しい思い出
仙台市泉区 星宮守(84)

私の生まれ育った地は「日本のチベット」といわれる岩手の片田舎。新鮮な空気が美しい自然の山々に囲まれ、遠くから

えずり、近くから聞こえてくる虫の鳴く音に耳を傾けながら育ちました。そうした中で、いろいろと楽しい思い出が数多くありますが、現在も深く脳裏に刻み込まれているのが郷土芸能の「神楽」です。神楽の練習などには静かな山村に笛、太鼓、鐘の音が響き、踊る姿が懐かしく思い出されます。

特に、地元の五十瀬神社の祭典時には、地域ごとに担当が決められ、祭典を盛り上げてくれます。

今でも忘れられないのは神楽の装束を着て、手真似などをして踊ったことです。笛、太鼓、鐘も一通りやりましたが、一番難しかったのは笛でした。

古里にいる同級生に聞くと、郷土芸能として若い人たちに伝え残したいのですが、その若い人たちがいなくて後継者育成に苦労しているようです。古里から神楽がなくならないよう、切に願っています。



多賀城市 鈴木朝夫(82)



大崎市 久保原六郎(78)



宮谷市 加川師亨(83)



受容(仙台市太白区) 仙台市太白区 中島澄江(77)



サン・ファン号(石巻市) 仙台市青葉区 野澤克朗(78)



「また、来てね」(石巻市) 石巻市 福地たいこ(73)